



# あすなろだより

2015年3月30日

発行 三重県立<sup>こども</sup>心療センター あすなろ学園 広報担当  
〒514 0818 三重県津市城山1 12 3 TEL.059 234 8700 FAX. 059 234 9361  
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/



## あすなろ学園祭報告



子どもたちにとって『あそび』は、ルールを理解し、楽しさを分かち合うなど社会性を伸ばし、心と身体を健康に発達させる有効な方法です。そのため当園では、入院治療の一環として、様々な企画を取り入れ実施する活動“あそび臨床おもしろクラブ”を行なっています。今年度は前号でお伝えした『キャンプ』を始め、『ゲーム大会』、『学園祭』、『伝承遊び・餅つき大会』、『遊び大会』を行いました。その中から、今号では『学園祭』の様子について報告したいと思います。

『あすなろ学園祭』とは、病棟での日頃の療育活動や分校での学校教育の成果を公開し、ご家族や地域の皆さま、関係機関の方々など学園内外に広くアピールする機会として、毎年秋に開催される“当園最大の療育活動”です。昨年度からはあすなろ分校との共催となり、子ども・職員・教員が一体となって、この学園祭を作り上げました。

当日のプログラムとしては、全員が一緒になって踊る“よさこい”や中学生太鼓グループによる演奏、各病棟別の舞台発表に加え、飲食店やフリーマーケット、あそびコーナーや作品展示コーナーなどの催し物を行いました。



子どもたちの準備段階からの取り組みとしては、8月頃より中学生太鼓グループの練習が始まります。毎週金曜日にグループの子どもたちが集まり、最初の頃は体力作りなどのメニューも取り入れながら練習に励み、太鼓を叩くための基礎体力を向上させつつ、演奏練習を通して個々の技術を高めていきました。始めはバラバラだった音も、集団としてのまとまりが見られるようになってくると息の合った素晴らしい演奏へと変わっていききました。

また、同時期には展示作品の制作も始まります。みんなで意見を出し、協力し合って共同作品に取り組んだり、一人ひとりが工夫を凝らしながらオリジナリティ溢れる個人作品を作ったり、学園内外に掲示用する案内用ポスターまで子どもたちが主体的になって作ってくれました。子どもたちが一生懸命になって作品作りに没頭する姿には本当に感心させられました。

9月頃からは各病棟でのよさこいや舞台発表の練習が始まります。練習は毎日夕方に行われ、よさこいの軽快なリズムに合わせた子どもたちの活気溢れる声は日に日に大きくなり、体を目一杯動かして踊る子どもたちの姿は、すごたくましく感じられました。舞台発表の練習では、台本を片手に必死になってそれぞれの台詞や動きを覚えようとしたり、当日使用する衣装を一生懸命作る姿が見られました。



10月に入ると最終段階として、全病棟の子どもたちが揃っての全体リハーサルが繰り返し行われ、開会式や閉会式に加え、よさこいの全体練習も行われます。この頃には学園全体が学園祭ムード一色となり、子どもたちのみならず職員や教員も期待感に胸を膨らませ、待ち遠しい気持ちになります。

昨年度は台風接近の影響から、当日の開催が危ぶまれる事態となりましたが、今年度はそのような心配もなく、天候にも恵まれた素晴らしい学園祭となりました。学園祭という晴

れ舞台上、子どもたちは多少の不安や緊張を抱えながらも、一生懸命頑張って練習や準備に取り組んできた成果を存分に発揮することができました。

終了後に子どもたちに感想を聞きました。「舞台発表ではトラブルなく練習通りにできたので達成感があった」、「緊張したけど練習の成果が発揮できたので良かった」、「みんなで協力できて良かった」、「全体的に楽しかった」、「お父さんやお母さんに良いところを見てもらえて良かった」等の声が上がリ、見に来ていただいた多くの観客の皆さまから大きな称賛を浴びるこの貴重な経験は、子どもたちにとってとても大きな自信と充実感を得る機会となりました。

この学園祭で得た経験を、今後の病棟や分校での生活や退院後の生活に大いに活かしていってくれることを、心から期待しています。



【餅つき大会】



【伝承遊び】



【太鼓グループによる演奏】

# 三重県こども心身発達医療センター（仮称） および併設する特別支援学校の整備の近況報告

県では、子どもの発達支援体制の強化を図るため、草の実リハビリテーションセンター、小児心療センターあすなる学園及び児童相談センターの言語聴覚機能を統合した、三重県こども心身発達医療センター（仮称）（以下「新センター」といいます。）および併設する特別支援学校の整備に取り組んでいます。その近況を報告します。

## 1 新センター等の整備方針

- （1）専門人材を集積し、専門性を高め、子どもにとって安全、安心な環境の中で、良質で高度な医療・福祉サービスを提供します。
- （2）小児医療との連携強化・機能補完により、利用者の利便性を向上させるとともに、小児分野の臨床経験の場や機会を創造します。
- （3）専門医療をベースに地域の支援機能を高め、併設する特別支援学校とともに、発達支援の中核として、三重県全体の総合力の向上をめざします。

※具体的な内容や施設運営等について、テーマ別のワーキンググループを設置し検討を行っています。その中で、併設する特別支援学校との連携による地域支援等に関する検討を県教育委員会とともにを行っています。

## 2 現在までの取組状況

新センターの整備については、平成23年度に三重県地域医療再生計画に位置付け、基本計画を取りまとめた上で、平成24年度は地権者との協議や測量、環境調査等を進めました。平成25年度は建築許可を受けて、土地の買収を行い、平成26年2月から敷地整備工事に着手しています。

建築設計業務は平成26年度末に実施設計を完成させ、平成27年度は建築工事に着手する予定です。

## 3 実施設計の概要

### （1）新センター等の整備概要

- ① 敷地面積：約16,600㎡
- ② 建築規模：新センター：13,013㎡、特別支援学校：4,187㎡
- ③ 建築構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）4階建て
- ④ 建設費：約90億円（平成27～28年度）  
（内訳 新センター：約71億円 特別支援学校：約19億円）
- ⑤ 標準工期：21か月間（予定）

### （2）実施設計におけるポイント

平成25年度に建築物の基本的なデザイン、配置計画、基本構造を検討した「基本設計」に基づき、

平成26年度は「実施設計」において、さらに詳細に、構造、工法、設備の検討や使用材料、品質、規格の検討を行い、詳細な図面を作成した上で設計の精緻化を進めるとともに、昨今の建設市場の動向をふまえ、適切な価格の算出に努めています。

- ① 現場条件（地質、敷地、隣接する三重病院への影響等）の適切な反映
- ② 対象児（肢体不自由児や発達障がい児、聴覚障がい児等）に配慮した内外装、設備類の特性を具体的に反映
- ③ 建築資材や労務費の高騰に伴う実勢価格の適切な反映
- ④ 経費削減の検討（汎用品の採用、グレードの見直しなど製品や工法の検討）

#### 4 今後の整備スケジュール

新センターについては、平成29年3月末の施設完成後、2か月の準備期間を経て、平成29年6月に開院する予定です。

平成27年3月 実施設計完成

平成27年度 建築工事着手

平成28年度 建築工事完成

平成29年6月 新センターの開院及び新校舎への移転（予定）

※あすなろ学園の分校は、平成29年4月に県立特別支援学校として開校します。（4月、5月は、現在の校舎を使用します。）

#### 新センター鳥瞰図（南側からの図）

左側の八角形が新センター部分、右側の逆台形が特別支援学校、上部の建物は国立病院機構三重病院です。



### 外来診療のご案内

（平成27年4月1日現在）

\* 診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

● 予約電話番号 **059-234-9700**

（ 予約電話 9:00~12:00  
 受付時間 13:00~16:30  
 (月~金) ）

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	西田	大橋	大槻
2 診	大槻	中西	石田	中西	
3 診				笹岡	
4 診		中島	中野		中野
5 診			笹岡 (PMのみ)		